

FUJIFILM

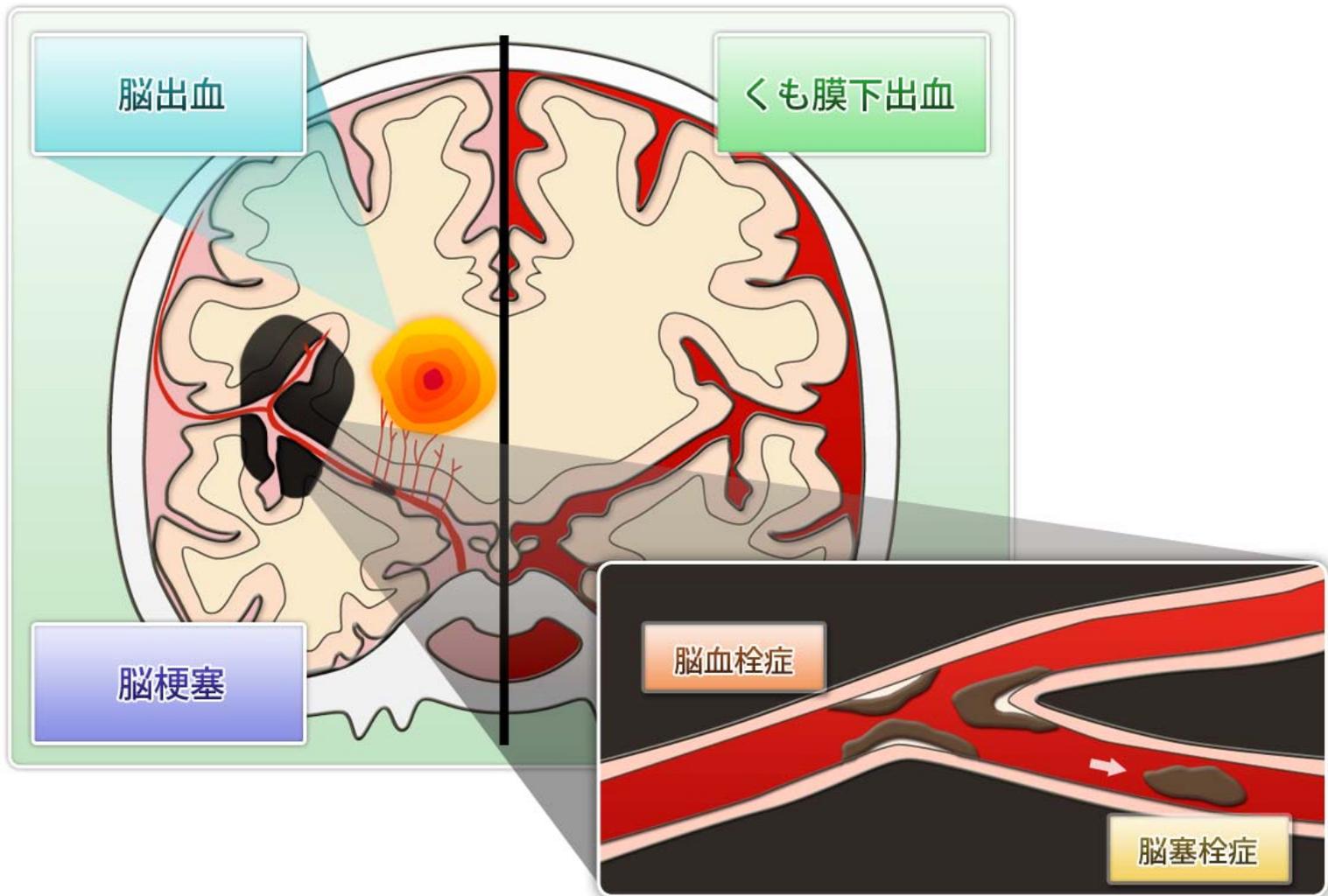


遠隔画像診断治療補助システム 「i-Stroke」



脳卒中とは・・・

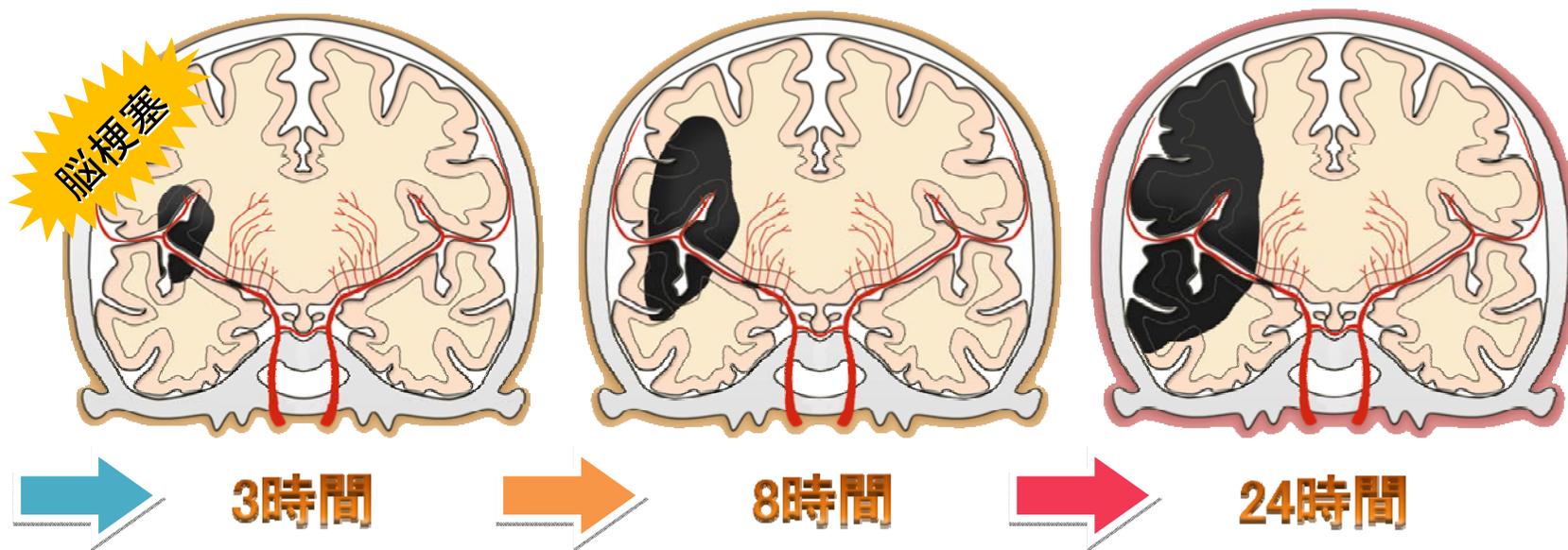
脳梗塞・脳出血・くも膜下出血





脳梗塞における病巣の拡大

時間経過と共に梗塞は大きくなってしまいます



脳梗塞の急性期治療は 時間との勝負

救える命を、ひとつでも多く



コンセプト

スマートフォン端末を利用した「医療用画像診断治療補助システム」
「少しでも多くの患者の命を効率的に救い、現在の脳卒中患者の1割でも救命するために…」

それが、**「i-Stroke CONCEPT」**





i-Strokeとは

①院内の当直医から、院外の専門医の持つ携帯端末に検査画像や診療情報を送信し、治療に必要な処置情報をやりとりすることで、**迅速な診断や治療をサポート**するシステムです。

②本システムは東京慈恵会医科大学で考案され、2010年7月に当社と共同研究を開始しました。実際の医療の現場で開発実証されたシステムを商品化したので、**医療現場で即役立つシステム**になっています。

③システムの開発にあたっては、慈恵医大を中心とした**「ひとつでも多くの命を救うプロジェクト」**に参加する他の企業様 (NTTドコモ様, 日本光電様, アドバンスメディア様) にも多大なるご協力を頂いております。

④現在 (2012.4) の販売対象は国内ですが、米国の非常に大規模な医療施設でも導入を検討頂いており、**日本で創られた「i-Stroke」が世界に広がる**としています。



特長①

<医療チームを同時に“つなぐ”>

- **ストロークコール**

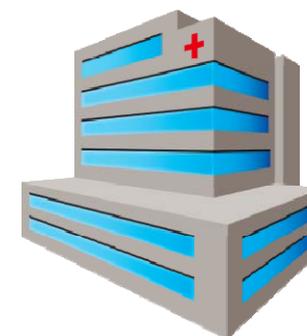
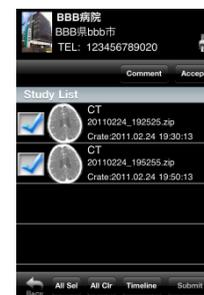
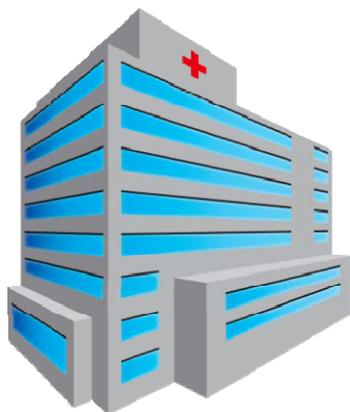
医療チームに対して一斉に緊急呼び出しができます。

- **Tweet機能**

医療チーム内のコミュニケーションをサポートします。

- **病院間連携**

患者転送時の迅速な受け入れ判断・準備をサポートします。



特長②

<多様な医療情報を迅速に確認>

●検査画像閲覧

CT、MRI、3Dなどの画像を早く見やすく表示できます。

※3D画像の作成依頼と閲覧はオプション

●タイムライン表示

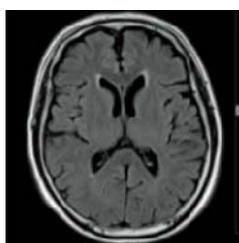
救急時における検査と治療の経過を一目で把握できます。

●手術映像のストリーミング

手術室の映像が院外でもリアルタイムで見れます。(オプション)



CT



MRI



XA



3D





特長③

<急性期脳卒中治療をサポート>

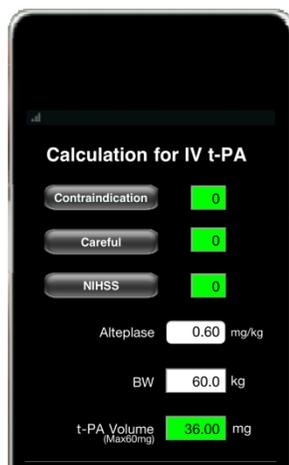
●治療補助機能

t-PA投与の禁忌項目や慎重項目の確認ができます。

t-PA投与量の計算ができます。

t-PA投与後のチェックができます。(NIHSSチェックリスト)

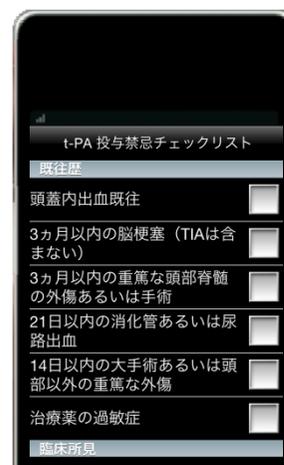
t-PA投与や血栓除去術の開始／終了時刻を記録できます。



t-PA自動計算



NIHSSチェック



t-PA投与禁忌チェック



投薬禁判定の例



i-Strokeを活用した救急医療現場の流れ

●救急時連携

急患搬送



救急診療



治療



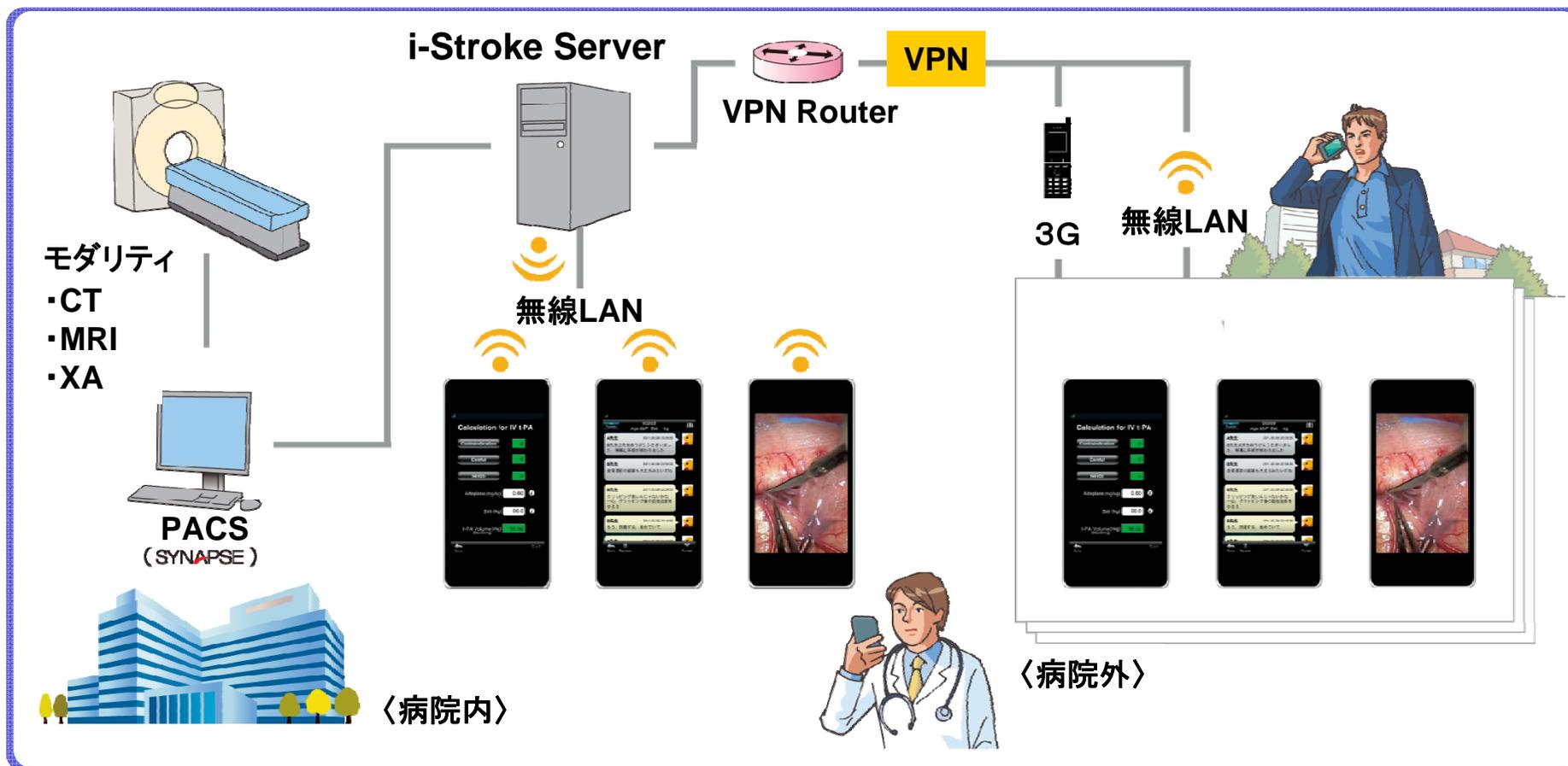
受け入れ → 検査 → ストロークコール → 専門医の助言 → 治療方針決定

不安、
専門医に相談したい

何人もの専門医が
サポートしてくれる

システムの基本構成

- 病院内にi-Strokeサーバを配備
- 携帯端末用アプリケーションは無償でダウンロード。
- セキュリティを確保したシステム





世界は、ひとつずつ変えることができる